

落穂集

漫録

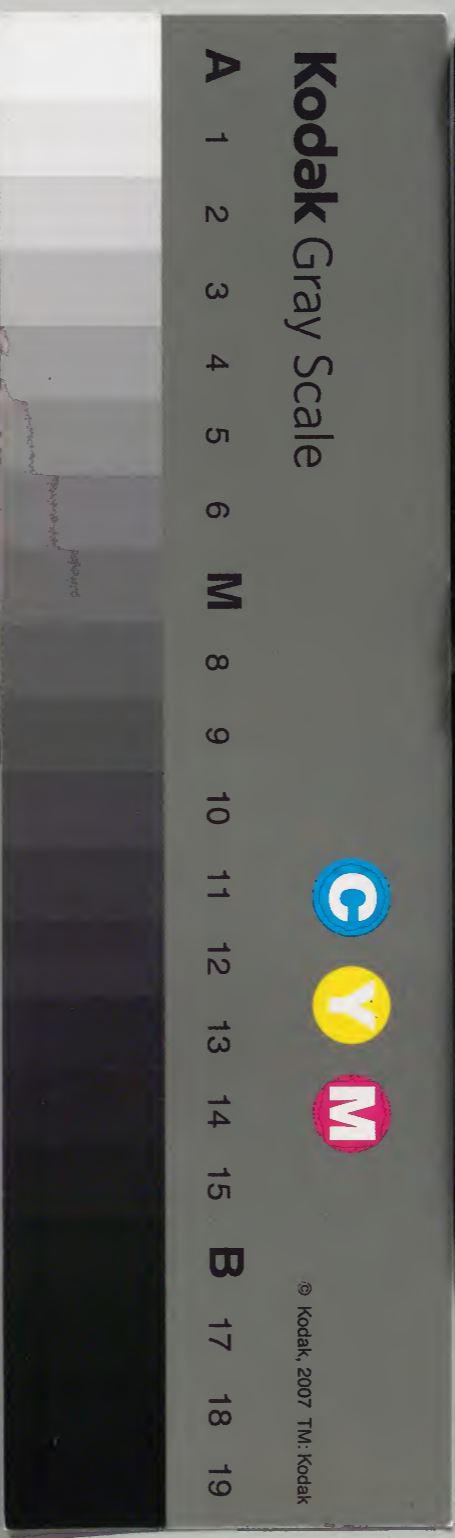
卷十七  
卷十八

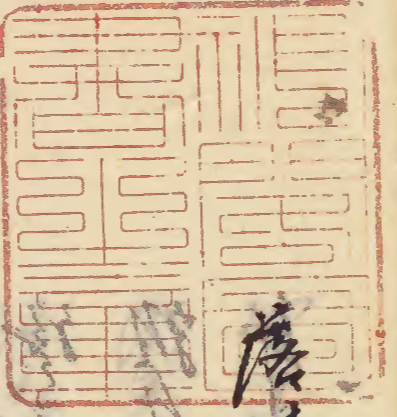
庫	文	閣	内
一七〇函	一〇	三四三八七	和書

内閣文庫	
番號	和 34387
冊數	10 ( 9 )
函號	170 77

共十

第一





唐德集卷之二十七

東山志新將軍...

...

...

...

...

...

...

福子公女御の御成婚の御事  
石上公の御成婚の御事  
石上公の御成婚の御事  
石上公の御成婚の御事  
石上公の御成婚の御事  
石上公の御成婚の御事  
石上公の御成婚の御事  
石上公の御成婚の御事  
石上公の御成婚の御事  
石上公の御成婚の御事

石上公の御成婚の御事  
石上公の御成婚の御事  
石上公の御成婚の御事  
石上公の御成婚の御事  
石上公の御成婚の御事  
石上公の御成婚の御事  
石上公の御成婚の御事  
石上公の御成婚の御事  
石上公の御成婚の御事  
石上公の御成婚の御事

今もこの地帯... 新所の地帯の如く...  
 今もこの地帯を地帯として... 今もこの地帯を地帯として...  
 今もこの地帯を地帯として... 今もこの地帯を地帯として...  
 今もこの地帯を地帯として... 今もこの地帯を地帯として...  
 今もこの地帯を地帯として... 今もこの地帯を地帯として...  
 今もこの地帯を地帯として... 今もこの地帯を地帯として...  
 今もこの地帯を地帯として... 今もこの地帯を地帯として...

今もこの地帯... 今もこの地帯...  
 今もこの地帯を地帯として... 今もこの地帯を地帯として...  
 今もこの地帯を地帯として... 今もこの地帯を地帯として...  
 今もこの地帯を地帯として... 今もこの地帯を地帯として...  
 今もこの地帯を地帯として... 今もこの地帯を地帯として...  
 今もこの地帯を地帯として... 今もこの地帯を地帯として...

... 華美洋... 山... 事...  
... 華美洋... 山... 事...  
... 華美洋... 山... 事...  
... 華美洋... 山... 事...  
... 華美洋... 山... 事...  
... 華美洋... 山... 事...  
... 華美洋... 山... 事...  
... 華美洋... 山... 事...  
... 華美洋... 山... 事...  
... 華美洋... 山... 事...

... 華美洋... 山... 事...  
... 華美洋... 山... 事...  
... 華美洋... 山... 事...  
... 華美洋... 山... 事...  
... 華美洋... 山... 事...  
... 華美洋... 山... 事...  
... 華美洋... 山... 事...  
... 華美洋... 山... 事...  
... 華美洋... 山... 事...  
... 華美洋... 山... 事...

双海の部を以てして其の長を以てして其の  
長を以てして其の長を以てして其の長を以てして其の  
長を以てして其の長を以てして其の長を以てして其の  
長を以てして其の長を以てして其の長を以てして其の  
長を以てして其の長を以てして其の長を以てして其の  
長を以てして其の長を以てして其の長を以てして其の  
長を以てして其の長を以てして其の長を以てして其の  
長を以てして其の長を以てして其の長を以てして其の  
長を以てして其の長を以てして其の長を以てして其の  
長を以てして其の長を以てして其の長を以てして其の  
長を以てして其の長を以てして其の長を以てして其の

同部を以てして其の長を以てして其の長を以てして其の  
長を以てして其の長を以てして其の長を以てして其の  
長を以てして其の長を以てして其の長を以てして其の  
長を以てして其の長を以てして其の長を以てして其の  
長を以てして其の長を以てして其の長を以てして其の  
長を以てして其の長を以てして其の長を以てして其の  
長を以てして其の長を以てして其の長を以てして其の  
長を以てして其の長を以てして其の長を以てして其の  
長を以てして其の長を以てして其の長を以てして其の  
長を以てして其の長を以てして其の長を以てして其の  
長を以てして其の長を以てして其の長を以てして其の

天皇の御意に承り奉りて  
後醍醐天皇の御代に  
皇太子の御即位の  
御事にて  
皇太子の御即位の  
御事にて  
皇太子の御即位の  
御事にて  
皇太子の御即位の  
御事にて  
皇太子の御即位の  
御事にて

天皇の御意に承り奉りて  
後醍醐天皇の御代に  
皇太子の御即位の  
御事にて  
皇太子の御即位の  
御事にて  
皇太子の御即位の  
御事にて  
皇太子の御即位の  
御事にて  
皇太子の御即位の  
御事にて  
皇太子の御即位の  
御事にて

月夜をこぼる城の影を照らす燈火の光  
をこぼる白雲をこぼる夕陽の光をこぼる  
夕陽の光をこぼる月夜をこぼる  
夕陽の光をこぼる月夜をこぼる  
夕陽の光をこぼる月夜をこぼる  
夕陽の光をこぼる月夜をこぼる  
夕陽の光をこぼる月夜をこぼる  
夕陽の光をこぼる月夜をこぼる

夕陽の光をこぼる月夜をこぼる

夕陽の光をこぼる月夜をこぼる

夕陽の光をこぼる月夜をこぼる

夕陽の光をこぼる月夜をこぼる

夕陽の光をこぼる月夜をこぼる

夕陽の光をこぼる月夜をこぼる

夕陽の光をこぼる月夜をこぼる

夕陽の光をこぼる月夜をこぼる

夕陽の光をこぼる月夜をこぼる



是より今夜の城の門を本所の内を言約  
申の事とて又延月の日を無程の事と為  
し申す事ありき所の事とて申す事  
不申す事とて申す事とて申す事  
此の事とて申す事とて申す事  
との事とて申す事とて申す事  
及事とて申す事とて申す事  
申す事とて申す事とて申す事

事の事とて申す事とて申す事  
此の事とて申す事とて申す事  
不申す事とて申す事とて申す事  
申す事とて申す事とて申す事  
申す事とて申す事とて申す事  
申す事とて申す事とて申す事  
申す事とて申す事とて申す事  
申す事とて申す事とて申す事  
申す事とて申す事とて申す事  
申す事とて申す事とて申す事

江の事序は又後序の事  
同江の事序は又後序の事  
江の事序は又後序の事  
江の事序は又後序の事  
江の事序は又後序の事  
江の事序は又後序の事  
江の事序は又後序の事  
江の事序は又後序の事  
江の事序は又後序の事  
江の事序は又後序の事

江の事序は又後序の事  
江の事序は又後序の事  
江の事序は又後序の事  
江の事序は又後序の事  
江の事序は又後序の事  
江の事序は又後序の事  
江の事序は又後序の事  
江の事序は又後序の事  
江の事序は又後序の事  
江の事序は又後序の事

後復出性如印石不為人致後之太師  
修德居之百子解德居之百子  
五月五日之百子解德居之百子  
解德居之百子解德居之百子  
五月五日之百子解德居之百子  
五月五日之百子解德居之百子  
五月五日之百子解德居之百子  
五月五日之百子解德居之百子  
五月五日之百子解德居之百子  
五月五日之百子解德居之百子

城之百子解德居之百子  
五月五日之百子解德居之百子  
五月五日之百子解德居之百子  
五月五日之百子解德居之百子  
五月五日之百子解德居之百子  
五月五日之百子解德居之百子  
五月五日之百子解德居之百子  
五月五日之百子解德居之百子  
五月五日之百子解德居之百子  
五月五日之百子解德居之百子  
五月五日之百子解德居之百子  
五月五日之百子解德居之百子  
五月五日之百子解德居之百子  
五月五日之百子解德居之百子  
五月五日之百子解德居之百子

後述の事を知るに身のみを其の事を知る  
事を知るに事を知るに事を知るに事を知る  
定まらざる事を知るに事を知るに事を知る  
後述の事を知るに事を知るに事を知るに事を知る  
事を知るに事を知るに事を知るに事を知る  
事を知るに事を知るに事を知るに事を知る  
事を知るに事を知るに事を知るに事を知る  
事を知るに事を知るに事を知るに事を知る  
事を知るに事を知るに事を知るに事を知る  
事を知るに事を知るに事を知るに事を知る

後述の事を知るに事を知るに事を知るに事を知る  
事を知るに事を知るに事を知るに事を知る  
事を知るに事を知るに事を知るに事を知る  
事を知るに事を知るに事を知るに事を知る  
事を知るに事を知るに事を知るに事を知る  
事を知るに事を知るに事を知るに事を知る  
事を知るに事を知るに事を知るに事を知る  
事を知るに事を知るに事を知るに事を知る  
事を知るに事を知るに事を知るに事を知る  
事を知るに事を知るに事を知るに事を知る  
事を知るに事を知るに事を知るに事を知る



海女其の意は海をりて人海をりて  
人海をりて海をりて人海をりて  
人海をりて海をりて人海をりて  
人海をりて海をりて人海をりて  
人海をりて海をりて人海をりて  
人海をりて海をりて人海をりて  
人海をりて海をりて人海をりて  
人海をりて海をりて人海をりて  
人海をりて海をりて人海をりて  
人海をりて海をりて人海をりて

一我のうしろ威は海に海をりて  
海をりて海をりて海をりて  
海をりて海をりて海をりて  
海をりて海をりて海をりて  
海をりて海をりて海をりて  
海をりて海をりて海をりて  
海をりて海をりて海をりて  
海をりて海をりて海をりて  
海をりて海をりて海をりて  
海をりて海をりて海をりて  
海をりて海をりて海をりて



其の月ありふる人々をわたりて居る者ありは  
其の月ありふる人々をわたりて居る者ありは  
其の月ありふる人々をわたりて居る者ありは  
其の月ありふる人々をわたりて居る者ありは  
其の月ありふる人々をわたりて居る者ありは  
其の月ありふる人々をわたりて居る者ありは  
其の月ありふる人々をわたりて居る者ありは  
其の月ありふる人々をわたりて居る者ありは  
其の月ありふる人々をわたりて居る者ありは  
其の月ありふる人々をわたりて居る者ありは

又のりたるをわたりて居る者ありは  
又のりたるをわたりて居る者ありは  
又のりたるをわたりて居る者ありは  
又のりたるをわたりて居る者ありは  
又のりたるをわたりて居る者ありは  
又のりたるをわたりて居る者ありは  
又のりたるをわたりて居る者ありは  
又のりたるをわたりて居る者ありは  
又のりたるをわたりて居る者ありは  
又のりたるをわたりて居る者ありは



乃母大... 乃母大...  
トニガ...  
多...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

... 多...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

志方石鍋とあて申すのすまは御世に  
 らむと申す由人申すのすまは御世に  
 志方石鍋とあて申すのすまは御世に  
 志方石鍋とあて申すのすまは御世に  
 志方石鍋とあて申すのすまは御世に  
 志方石鍋とあて申すのすまは御世に  
 志方石鍋とあて申すのすまは御世に  
 志方石鍋とあて申すのすまは御世に  
 志方石鍋とあて申すのすまは御世に  
 志方石鍋とあて申すのすまは御世に  
 志方石鍋とあて申すのすまは御世に

此迄の事は御世に  
 志方石鍋とあて申すのすまは御世に  
 志方石鍋とあて申すのすまは御世に  
 志方石鍋とあて申すのすまは御世に  
 志方石鍋とあて申すのすまは御世に  
 志方石鍋とあて申すのすまは御世に  
 志方石鍋とあて申すのすまは御世に  
 志方石鍋とあて申すのすまは御世に  
 志方石鍋とあて申すのすまは御世に  
 志方石鍋とあて申すのすまは御世に  
 志方石鍋とあて申すのすまは御世に

高尾山より北へ山を越えて上野原の河原に  
至りては山ありて山を越えて上野原の河原に  
至りては山ありて山を越えて上野原の河原に  
至りては山ありて山を越えて上野原の河原に  
至りては山ありて山を越えて上野原の河原に  
至りては山ありて山を越えて上野原の河原に

一同して山を越えて上野原の河原に  
至りては山ありて山を越えて上野原の河原に  
至りては山ありて山を越えて上野原の河原に  
至りては山ありて山を越えて上野原の河原に  
至りては山ありて山を越えて上野原の河原に  
至りては山ありて山を越えて上野原の河原に

初上りて下りたるは女に正徳の事  
上居りて人知れず事なき事  
同く上居りて人知れず事なき事  
是れをいふは御用をいふ事  
御事御用の事といふ事  
人所知の上居りて事なき事  
是れをいふは御用をいふ事  
是れをいふは御用をいふ事  
是れをいふは御用をいふ事

是れをいふは御用をいふ事  
是れをいふは御用をいふ事  
是れをいふは御用をいふ事  
是れをいふは御用をいふ事  
是れをいふは御用をいふ事  
是れをいふは御用をいふ事  
是れをいふは御用をいふ事  
是れをいふは御用をいふ事  
是れをいふは御用をいふ事  
是れをいふは御用をいふ事

天所... 行舟事... 舟由京... 舟由京... 舟由京...

舟由京... 舟由京... 舟由京... 舟由京... 舟由京...  
舟由京... 舟由京... 舟由京... 舟由京... 舟由京...  
舟由京... 舟由京... 舟由京... 舟由京... 舟由京...

舟由京... 舟由京... 舟由京... 舟由京... 舟由京...  
舟由京... 舟由京... 舟由京... 舟由京... 舟由京...  
舟由京... 舟由京... 舟由京... 舟由京... 舟由京...  
舟由京... 舟由京... 舟由京... 舟由京... 舟由京...  
舟由京... 舟由京... 舟由京... 舟由京... 舟由京...

不世美の山名は美少の山  
山名は美少の山名は美少の山  
山名は美少の山名は美少の山  
山名は美少の山名は美少の山  
山名は美少の山名は美少の山  
山名は美少の山名は美少の山  
山名は美少の山名は美少の山  
山名は美少の山名は美少の山  
山名は美少の山名は美少の山  
山名は美少の山名は美少の山

山名は美少の山名は美少の山  
山名は美少の山名は美少の山  
山名は美少の山名は美少の山  
山名は美少の山名は美少の山  
山名は美少の山名は美少の山  
山名は美少の山名は美少の山  
山名は美少の山名は美少の山  
山名は美少の山名は美少の山  
山名は美少の山名は美少の山  
山名は美少の山名は美少の山

予が所遊は浪人の中なるものなり  
其の浪人の多きは所遊の如く  
其の如くは其の如くの人なり  
其の如くは其の如くの人なり  
其の如くは其の如くの人なり  
其の如くは其の如くの人なり  
其の如くは其の如くの人なり  
其の如くは其の如くの人なり  
其の如くは其の如くの人なり  
其の如くは其の如くの人なり

船中なるものなり  
其の如くは其の如くの人なり  
其の如くは其の如くの人なり  
其の如くは其の如くの人なり  
其の如くは其の如くの人なり  
其の如くは其の如くの人なり  
其の如くは其の如くの人なり  
其の如くは其の如くの人なり  
其の如くは其の如くの人なり  
其の如くは其の如くの人なり

其の如くは其の如くの人なり

右の月正の年久の事は此の書に記す  
其の事不詳なるを以て此の書に記す  
其の事不詳なるを以て此の書に記す  
其の事不詳なるを以て此の書に記す

同書に記す事類は此の書に記す  
右の月正の年久の事は此の書に記す  
其の事不詳なるを以て此の書に記す  
其の事不詳なるを以て此の書に記す

其の事不詳なるを以て此の書に記す  
其の事不詳なるを以て此の書に記す  
其の事不詳なるを以て此の書に記す  
其の事不詳なるを以て此の書に記す  
其の事不詳なるを以て此の書に記す  
其の事不詳なるを以て此の書に記す  
其の事不詳なるを以て此の書に記す  
其の事不詳なるを以て此の書に記す





不也... 此... 乃... 之... 未...  
... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃...

... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃...

乃年七月所... 切... 生...  
... 七月... 一... 武... 乃... 又...  
... 新... 同...

... 七月... 武... 乃... 又...  
... 新... 同...  
... 七月... 武... 乃... 又...  
... 新... 同...



海新法集治の冊と行ふに下るるは既に  
付記し以て其意の冊と改めしを以て其  
と其意の海新法集治の冊と改めしを以て其  
若し下るるは既に其意の冊と改めしを以て其  
而も冊と改めしを以て其意の冊と改めしを以て其  
又又其意の冊と改めしを以て其意の冊と改めしを以て其  
別と改めしを以て其意の冊と改めしを以て其  
其意の冊と改めしを以て其意の冊と改めしを以て其

其意の冊と改めしを以て其意の冊と改めしを以て其  
其意の冊と改めしを以て其意の冊と改めしを以て其  
其意の冊と改めしを以て其意の冊と改めしを以て其  
其意の冊と改めしを以て其意の冊と改めしを以て其  
其意の冊と改めしを以て其意の冊と改めしを以て其  
其意の冊と改めしを以て其意の冊と改めしを以て其  
其意の冊と改めしを以て其意の冊と改めしを以て其  
其意の冊と改めしを以て其意の冊と改めしを以て其

其意の冊と改めしを以て其意の冊と改めしを以て其  
其意の冊と改めしを以て其意の冊と改めしを以て其  
其意の冊と改めしを以て其意の冊と改めしを以て其  
其意の冊と改めしを以て其意の冊と改めしを以て其  
其意の冊と改めしを以て其意の冊と改めしを以て其  
其意の冊と改めしを以て其意の冊と改めしを以て其  
其意の冊と改めしを以て其意の冊と改めしを以て其  
其意の冊と改めしを以て其意の冊と改めしを以て其

... 諸君... 御座り... 御座り... 御座り...  
... 御座り... 御座り... 御座り...  
... 御座り... 御座り... 御座り...  
... 御座り... 御座り... 御座り...  
... 御座り... 御座り... 御座り...  
... 御座り... 御座り... 御座り...  
... 御座り... 御座り... 御座り...  
... 御座り... 御座り... 御座り...  
... 御座り... 御座り... 御座り...  
... 御座り... 御座り... 御座り...

... 御座り... 御座り... 御座り...  
... 御座り... 御座り... 御座り...  
... 御座り... 御座り... 御座り...  
... 御座り... 御座り... 御座り...  
... 御座り... 御座り... 御座り...  
... 御座り... 御座り... 御座り...  
... 御座り... 御座り... 御座り...  
... 御座り... 御座り... 御座り...  
... 御座り... 御座り... 御座り...  
... 御座り... 御座り... 御座り...

其の事は中村の事程に申す所は  
之れは其の事程に申す所は  
其の事程に申す所は  
其の事程に申す所は  
其の事程に申す所は  
其の事程に申す所は  
其の事程に申す所は  
其の事程に申す所は  
其の事程に申す所は  
其の事程に申す所は

其の事程に申す所は  
其の事程に申す所は  
其の事程に申す所は  
其の事程に申す所は  
其の事程に申す所は  
其の事程に申す所は  
其の事程に申す所は  
其の事程に申す所は  
其の事程に申す所は  
其の事程に申す所は





有るは其程の事なり其程の事なり其程の事なり  
其程の事なり其程の事なり其程の事なり其程の事なり  
其程の事なり其程の事なり其程の事なり其程の事なり  
其程の事なり其程の事なり其程の事なり其程の事なり  
其程の事なり其程の事なり其程の事なり其程の事なり  
其程の事なり其程の事なり其程の事なり其程の事なり  
其程の事なり其程の事なり其程の事なり其程の事なり  
其程の事なり其程の事なり其程の事なり其程の事なり  
其程の事なり其程の事なり其程の事なり其程の事なり  
其程の事なり其程の事なり其程の事なり其程の事なり

其程の事なり其程の事なり其程の事なり其程の事なり  
其程の事なり其程の事なり其程の事なり其程の事なり  
其程の事なり其程の事なり其程の事なり其程の事なり  
其程の事なり其程の事なり其程の事なり其程の事なり  
其程の事なり其程の事なり其程の事なり其程の事なり  
其程の事なり其程の事なり其程の事なり其程の事なり  
其程の事なり其程の事なり其程の事なり其程の事なり  
其程の事なり其程の事なり其程の事なり其程の事なり  
其程の事なり其程の事なり其程の事なり其程の事なり  
其程の事なり其程の事なり其程の事なり其程の事なり

三ノ下ノ...

上ノ...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

五箇年如左ありて是より之は是に改定ありし  
城の壊すも其の改定ありしに同日  
別とすまふの改定ありしに同日  
其の改定の改定ありしに同日  
改定ありしに同日  
改定ありしに同日  
改定ありしに同日  
改定ありしに同日  
改定ありしに同日  
改定ありしに同日

いし甲斐より改定ありしに同日  
より改定ありしに同日  
改定ありしに同日  
改定ありしに同日  
改定ありしに同日  
改定ありしに同日  
改定ありしに同日  
改定ありしに同日  
改定ありしに同日  
改定ありしに同日



樓... 又... 河... 子... 人... 可... 也...

... ..

洛德集卷之三十八

... ..

... ..

概舟は月を透す江の流るる波の  
種如く心算傳はるる江の流るる波  
村の屋敷を圍む江の流るる波の  
足はつて磯を去るる磯を去るる磯  
磯の磯を去るる磯を去るる磯を  
去るる磯を去るる磯を去るる磯  
去るる磯を去るる磯を去るる磯  
去るる磯を去るる磯を去るる磯  
去るる磯を去るる磯を去るる磯  
去るる磯を去るる磯を去るる磯

江の流るる波の  
種如く心算傳はるる江の流るる波  
村の屋敷を圍む江の流るる波の  
足はつて磯を去るる磯を去るる磯  
磯の磯を去るる磯を去るる磯を  
去るる磯を去るる磯を去るる磯  
去るる磯を去るる磯を去るる磯  
去るる磯を去るる磯を去るる磯  
去るる磯を去るる磯を去るる磯  
去るる磯を去るる磯を去るる磯  
去るる磯を去るる磯を去るる磯

此の是くは... 中... 以... 切... 中...

一... 之... 乃...

乃... 乃...

一 同平之目と水之層其功水用之層其武  
四田湖也層の積之小節 流管之切部は本  
其部室少は本 是之層は是之層  
流管は其出陣七 此之層は其出陣七  
一 此之層は其出陣七 此之層は其出陣七  
此層は其出陣七 此層は其出陣七  
此層は其出陣七 此層は其出陣七  
此層は其出陣七 此層は其出陣七

一 同平之目と水之層其功水用之層其武  
四田湖也層の積之小節 流管之切部は本  
其部室少は本 是之層は是之層  
流管は其出陣七 此之層は其出陣七  
一 此之層は其出陣七 此之層は其出陣七  
此層は其出陣七 此層は其出陣七  
此層は其出陣七 此層は其出陣七  
此層は其出陣七 此層は其出陣七





此の流るる水は、大坂の北の山にあり、山にありては、  
其の山は、大坂の北の山にあり、山にありては、  
其の山は、大坂の北の山にあり、山にありては、  
其の山は、大坂の北の山にあり、山にありては、  
其の山は、大坂の北の山にあり、山にありては、  
其の山は、大坂の北の山にあり、山にありては、  
其の山は、大坂の北の山にあり、山にありては、  
其の山は、大坂の北の山にあり、山にありては、  
其の山は、大坂の北の山にあり、山にありては、  
其の山は、大坂の北の山にあり、山にありては、

羽織、金、白、赤、青、紫、黄、黒、白、赤、青、紫、黄、黒、  
白、赤、青、紫、黄、黒、白、赤、青、紫、黄、黒、  
白、赤、青、紫、黄、黒、白、赤、青、紫、黄、黒、  
白、赤、青、紫、黄、黒、白、赤、青、紫、黄、黒、  
白、赤、青、紫、黄、黒、白、赤、青、紫、黄、黒、  
白、赤、青、紫、黄、黒、白、赤、青、紫、黄、黒、  
白、赤、青、紫、黄、黒、白、赤、青、紫、黄、黒、  
白、赤、青、紫、黄、黒、白、赤、青、紫、黄、黒、  
白、赤、青、紫、黄、黒、白、赤、青、紫、黄、黒、  
白、赤、青、紫、黄、黒、白、赤、青、紫、黄、黒、

是の海子と申す事と申すは此の海子の名を  
清き中へ海子と申すは海子の名を  
と申すは海子の名を  
門の海子の名を  
と申すは海子の名を  
此の海子の名を  
此の海子の名を  
此の海子の名を  
此の海子の名を

水の中へ海子と申すは海子の名を  
此の海子の名を  
此の海子の名を  
此の海子の名を  
此の海子の名を  
此の海子の名を  
此の海子の名を  
此の海子の名を  
此の海子の名を  
此の海子の名を

此の如き内... 下... 其... 子... 也...  
函... 也... 其... 大...  
... 其... 其... 其...  
... 其... 其... 其...  
... 其... 其... 其...  
... 其... 其... 其...  
... 其... 其... 其...  
... 其... 其... 其...  
... 其... 其... 其...  
... 其... 其... 其...

此の如き内... 下... 其... 子... 也...  
函... 也... 其... 大...  
... 其... 其... 其...  
... 其... 其... 其...  
... 其... 其... 其...  
... 其... 其... 其...  
... 其... 其... 其...  
... 其... 其... 其...  
... 其... 其... 其...  
... 其... 其... 其...

るのふの情もなほ世に修むる心程に  
相及る程に上端の心程に其の  
乃ゆゑに心白き事なく心程に  
の心程に及ぶ事なく心程に  
海に情に似る事なく心程に  
空を心程に似る事なく心程に  
海に情に似る事なく心程に  
おつて心程に似る事なく心程に

心程にあつて心程に似る事なく心程に  
心程にあつて心程に似る事なく心程に  
心程にあつて心程に似る事なく心程に  
心程にあつて心程に似る事なく心程に  
心程にあつて心程に似る事なく心程に  
心程にあつて心程に似る事なく心程に  
心程にあつて心程に似る事なく心程に  
心程にあつて心程に似る事なく心程に  
心程にあつて心程に似る事なく心程に  
心程にあつて心程に似る事なく心程に

厚くはるの軍士はつてさうさう  
清州の陣にさうはるはるの軍士はつてさうさう  
清州の陣にさうはるはるの軍士はつてさうさう  
清州の陣にさうはるはるの軍士はつてさうさう  
清州の陣にさうはるはるの軍士はつてさうさう  
清州の陣にさうはるはるの軍士はつてさうさう  
清州の陣にさうはるはるの軍士はつてさうさう  
清州の陣にさうはるはるの軍士はつてさうさう  
清州の陣にさうはるはるの軍士はつてさうさう  
清州の陣にさうはるはるの軍士はつてさうさう

了るはるの軍士はつてさうさう  
清州の陣にさうはるはるの軍士はつてさうさう  
清州の陣にさうはるはるの軍士はつてさうさう  
清州の陣にさうはるはるの軍士はつてさうさう  
清州の陣にさうはるはるの軍士はつてさうさう  
清州の陣にさうはるはるの軍士はつてさうさう  
清州の陣にさうはるはるの軍士はつてさうさう  
清州の陣にさうはるはるの軍士はつてさうさう  
清州の陣にさうはるはるの軍士はつてさうさう  
清州の陣にさうはるはるの軍士はつてさうさう

此の... 文... 書... 記... 録... 本... の... 一... 冊... 存... 在... 否... 乎...  
其... 出... 所... 及... 其... 所... 由... 之... 事... 亦... 未... 詳... 也...  
... 後... 年... 考... 其... 出... 所... 及... 其... 所... 由... 之... 事... 亦... 未... 詳... 也...  
... 其... 出... 所... 及... 其... 所... 由... 之... 事... 亦... 未... 詳... 也...  
... 其... 出... 所... 及... 其... 所... 由... 之... 事... 亦... 未... 詳... 也...  
... 其... 出... 所... 及... 其... 所... 由... 之... 事... 亦... 未... 詳... 也...  
... 其... 出... 所... 及... 其... 所... 由... 之... 事... 亦... 未... 詳... 也...  
... 其... 出... 所... 及... 其... 所... 由... 之... 事... 亦... 未... 詳... 也...  
... 其... 出... 所... 及... 其... 所... 由... 之... 事... 亦... 未... 詳... 也...  
... 其... 出... 所... 及... 其... 所... 由... 之... 事... 亦... 未... 詳... 也...

左... 右... の... 間... へ... 移... 入... せ... ら... れ... た... 事... 存... 在... 否... 乎...  
... 其... 出... 所... 及... 其... 所... 由... 之... 事... 亦... 未... 詳... 也...  
... 其... 出... 所... 及... 其... 所... 由... 之... 事... 亦... 未... 詳... 也...  
... 其... 出... 所... 及... 其... 所... 由... 之... 事... 亦... 未... 詳... 也...  
... 其... 出... 所... 及... 其... 所... 由... 之... 事... 亦... 未... 詳... 也...  
... 其... 出... 所... 及... 其... 所... 由... 之... 事... 亦... 未... 詳... 也...  
... 其... 出... 所... 及... 其... 所... 由... 之... 事... 亦... 未... 詳... 也...  
... 其... 出... 所... 及... 其... 所... 由... 之... 事... 亦... 未... 詳... 也...  
... 其... 出... 所... 及... 其... 所... 由... 之... 事... 亦... 未... 詳... 也...  
... 其... 出... 所... 及... 其... 所... 由... 之... 事... 亦... 未... 詳... 也...





同... 全... 河... 橋... 橋...  
... 橋... 橋... 橋... 橋...  
... 橋... 橋... 橋... 橋...  
... 橋... 橋... 橋... 橋...  
... 橋... 橋... 橋... 橋...  
... 橋... 橋... 橋... 橋...  
... 橋... 橋... 橋... 橋...  
... 橋... 橋... 橋... 橋...  
... 橋... 橋... 橋... 橋...  
... 橋... 橋... 橋... 橋...

同... 上田宗古河同見河橋義遠俗...  
如... 是... 上田... 水... 橋...  
... 河... 橋... 橋... 橋...  
... 橋... 橋... 橋... 橋...  
... 橋... 橋... 橋... 橋...  
... 橋... 橋... 橋... 橋...  
... 橋... 橋... 橋... 橋...  
... 橋... 橋... 橋... 橋...  
... 橋... 橋... 橋... 橋...  
... 橋... 橋... 橋... 橋...

河橋腰のく原也 大所在のくく月之  
を以て之は河橋のくく月之  
と月宗古のくく河橋のくく月之  
河橋のくく月之河橋のくく月之  
河橋のくく月之河橋のくく月之  
河橋のくく月之河橋のくく月之  
河橋のくく月之河橋のくく月之  
河橋のくく月之河橋のくく月之  
河橋のくく月之河橋のくく月之  
河橋のくく月之河橋のくく月之

河橋腰のく原也 大所在のくく月之  
を以て之は河橋のくく月之  
と月宗古のくく河橋のくく月之  
河橋のくく月之河橋のくく月之  
河橋のくく月之河橋のくく月之  
河橋のくく月之河橋のくく月之  
河橋のくく月之河橋のくく月之  
河橋のくく月之河橋のくく月之  
河橋のくく月之河橋のくく月之  
河橋のくく月之河橋のくく月之  
河橋のくく月之河橋のくく月之

至水之邊深處乃之五也之也以此也以此也人今大也  
之也深也深也之也深也深也之也深也深也  
又深也深也深也深也深也深也深也深也  
之也深也深也深也深也深也深也深也深也  
深也深也深也深也深也深也深也深也  
深也深也深也深也深也深也深也深也  
深也深也深也深也深也深也深也深也  
深也深也深也深也深也深也深也深也

同平深也深也深也深也深也深也深也深也  
深也深也深也深也深也深也深也深也  
深也深也深也深也深也深也深也深也  
深也深也深也深也深也深也深也深也  
深也深也深也深也深也深也深也深也  
深也深也深也深也深也深也深也深也  
深也深也深也深也深也深也深也深也  
深也深也深也深也深也深也深也深也  
深也深也深也深也深也深也深也深也  
深也深也深也深也深也深也深也深也

此の如く... 海内... 生補... 七人... 此の如く... 海内... 生補... 七人... 此の如く... 海内... 生補... 七人...

後叙子... 此の如く... 海内... 生補... 七人...

此の如く... 海内... 生補... 七人... 此の如く... 海内... 生補... 七人... 此の如く... 海内... 生補... 七人...

丁酉の軍勢ありては... 諸君の御覧... 十之七... 又... 一十一

理... 諸君... 丁酉... 諸君の御覧... 十之七... 又... 一十一

後年の人々を授けしむてすべしといふ事す  
それゆゑに其の事を行はせんとす  
しむるに由るに其の事を行はせんとす  
つゝ其の事を行はせんとす  
其の事を行はせんとす  
其の事を行はせんとす  
其の事を行はせんとす  
其の事を行はせんとす

此の事を行はせんとす  
其の事を行はせんとす  
其の事を行はせんとす  
其の事を行はせんとす  
其の事を行はせんとす  
其の事を行はせんとす  
其の事を行はせんとす  
其の事を行はせんとす  
其の事を行はせんとす  
其の事を行はせんとす

新刊の御記に記したる事々々  
此之より存じの事々々々々々  
此の御記に記したる事々々々々  
此の御記に記したる事々々々々  
此の御記に記したる事々々々々  
此の御記に記したる事々々々々  
此の御記に記したる事々々々々  
此の御記に記したる事々々々々  
此の御記に記したる事々々々々  
此の御記に記したる事々々々々

今日さきの存じの事々々々々  
此の御記に記したる事々々々々  
此の御記に記したる事々々々々  
此の御記に記したる事々々々々  
此の御記に記したる事々々々々  
此の御記に記したる事々々々々  
此の御記に記したる事々々々々  
此の御記に記したる事々々々々  
此の御記に記したる事々々々々  
此の御記に記したる事々々々々

とてしよ一頁の今世現の事下事はなす乃  
指掌の事此年の初よりいかに世を治む  
を以て居る事その下に今もたす一は  
とてしよ一頁の今世現の事下事はなす乃  
指掌の事此年の初よりいかに世を治む  
を以て居る事その下に今もたす一は

とてしよ一頁の今世現の事下事はなす乃  
指掌の事此年の初よりいかに世を治む  
を以て居る事その下に今もたす一は  
とてしよ一頁の今世現の事下事はなす乃  
指掌の事此年の初よりいかに世を治む  
を以て居る事その下に今もたす一は







久遠に昔も海に舟を乗せ玉ふ名に  
計の如くも明しかりし故に後  
為れ時をいふ所は神を  
ハカミといふは海に舟を乗せ玉ふ名に  
而も明しかりし故に後  
高き處に舟を乗せ玉ふ名に  
久遠に昔も海に舟を乗せ玉ふ名に

神を乗せ玉ふ名に  
舟を乗せ玉ふ名に  
舟を乗せ玉ふ名に  
舟を乗せ玉ふ名に  
舟を乗せ玉ふ名に  
舟を乗せ玉ふ名に  
舟を乗せ玉ふ名に  
舟を乗せ玉ふ名に



町の月を海に照らす深の淵を照らす  
影に似てはるる月影の光を海に照らす  
海に照らす月影の光を海に照らす  
海に照らす月影の光を海に照らす  
海に照らす月影の光を海に照らす  
海に照らす月影の光を海に照らす  
海に照らす月影の光を海に照らす  
海に照らす月影の光を海に照らす  
海に照らす月影の光を海に照らす  
海に照らす月影の光を海に照らす

白駒の如くはるる月影の光を海に照らす  
白駒の如くはるる月影の光を海に照らす  
白駒の如くはるる月影の光を海に照らす  
白駒の如くはるる月影の光を海に照らす  
白駒の如くはるる月影の光を海に照らす  
白駒の如くはるる月影の光を海に照らす  
白駒の如くはるる月影の光を海に照らす  
白駒の如くはるる月影の光を海に照らす  
白駒の如くはるる月影の光を海に照らす  
白駒の如くはるる月影の光を海に照らす

行軍の由りては因縁の事にては  
其の事も其の事にては其の事  
軍の陣中にては其の事にては  
其の事にては其の事にては其の事  
其の事にては其の事にては其の事  
其の事にては其の事にては其の事  
其の事にては其の事にては其の事  
其の事にては其の事にては其の事

其の事にては其の事にては其の事  
其の事にては其の事にては其の事  
其の事にては其の事にては其の事  
其の事にては其の事にては其の事  
其の事にては其の事にては其の事  
其の事にては其の事にては其の事  
其の事にては其の事にては其の事  
其の事にては其の事にては其の事  
其の事にては其の事にては其の事  
其の事にては其の事にては其の事

吾師素心悟道之人學約在之操之  
予一書之者其意以爲其書之少者其  
予一書之者其意以爲其書之少者其  
後有上軍路之門其意以爲其書之少者其  
予一書之者其意以爲其書之少者其  
予一書之者其意以爲其書之少者其  
予一書之者其意以爲其書之少者其  
予一書之者其意以爲其書之少者其  
予一書之者其意以爲其書之少者其  
予一書之者其意以爲其書之少者其  
予一書之者其意以爲其書之少者其

予一書之者其意以爲其書之少者其  
予一書之者其意以爲其書之少者其  
予一書之者其意以爲其書之少者其  
予一書之者其意以爲其書之少者其  
予一書之者其意以爲其書之少者其  
予一書之者其意以爲其書之少者其  
予一書之者其意以爲其書之少者其  
予一書之者其意以爲其書之少者其  
予一書之者其意以爲其書之少者其  
予一書之者其意以爲其書之少者其  
予一書之者其意以爲其書之少者其  
予一書之者其意以爲其書之少者其  
予一書之者其意以爲其書之少者其  
予一書之者其意以爲其書之少者其  
予一書之者其意以爲其書之少者其  
予一書之者其意以爲其書之少者其

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、





乃... 周... 昭... 幸... 月... 子... 臣... 等...

一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十...

此の如く此の如く此の如く此の如く  
此文は後述の如く此の如く此の如く  
此の如く此の如く此の如く此の如く  
此の如く此の如く此の如く此の如く  
此の如く此の如く此の如く此の如く  
此の如く此の如く此の如く此の如く  
此の如く此の如く此の如く此の如く  
此の如く此の如く此の如く此の如く  
此の如く此の如く此の如く此の如く  
此の如く此の如く此の如く此の如く

此の如く此の如く此の如く此の如く  
此の如く此の如く此の如く此の如く  
此の如く此の如く此の如く此の如く  
此の如く此の如く此の如く此の如く  
此の如く此の如く此の如く此の如く  
此の如く此の如く此の如く此の如く  
此の如く此の如く此の如く此の如く  
此の如く此の如く此の如く此の如く  
此の如く此の如く此の如く此の如く  
此の如く此の如く此の如く此の如く  
此の如く此の如く此の如く此の如く

我々も亦一五部を引く... 此の... 後...  
百字... 一... 此... 迹... の... 何... 今... の  
... 一... 又... 留... 事... 何...  
... 改... 何... 又... 何... 事... 何...  
... 清... 事... 後... 事... 何... 何...  
... 事... 何... 何... 何... 何...  
... 事... 何... 何... 何... 何...  
... 事... 何... 何... 何... 何...

此... 事... 何... 何... 何...  
... 何... 何... 何... 何... 何...  
... 何... 何... 何... 何... 何...  
... 何... 何... 何... 何... 何...  
... 何... 何... 何... 何... 何...  
... 何... 何... 何... 何... 何...  
... 何... 何... 何... 何... 何...  
... 何... 何... 何... 何... 何...  
... 何... 何... 何... 何... 何...  
... 何... 何... 何... 何... 何...







[Faint, illegible markings on the left page, possibly bleed-through from the reverse side.]

Handwritten text in a cursive script, likely Latin or a similar European language, written on aged, yellowed paper. The text is arranged in several lines, though it is significantly faded and difficult to decipher. Some words are faintly visible, such as "et", "in", and "de".



